

# 旭川大学高等学校吹奏楽部



V・ネリベル作曲  
「アンティフォナーレ」

<2009年>

## 第9回東日本学校吹奏楽大会

第6回、第7回に続き3度目の

<2006年> <2007年>



# 金賞受賞

ありがとうございます

部長 北田 めぐみ (北門中)

顧問 川島 明人

私たちは、この度8月1日に行われました旭川地区大会B編成の部門で金賞を受賞し、全道大会への推薦をいただき、東日本大会で金賞を受賞することができました。私たちは昨年度から部員が増えた関係で、35名までで編成されるB編成にレベルを上げました。経験年数もばらばらで技術面で不安を持つ部員もいる中で、部員全員がお互いに叱咤激励を行いがんばってきました。「後悔のない演奏をしよう」、「自分たちのベストをつくそう」という強い気持ちを持って挑んだ地区・全道、そして東日本大会。結果は金賞。これは本当に信じられないことであまり実感が今でもありませんが、みんなで一つになって努力し結果を残せたことは私たちにとってとても大きな自信となりました。

旭大高吹奏楽部には3つのモットーがあります。POSITIVE, PURE, MEMBERSHIP。この3つは部活動に限らず、何をするにもとても大切なことだと思います。日々の部活動の中で私たちはミーティングの時間を大切にしており、そこでは学年や全体で意見を出し合い、またモットーについて話し合ったりします。

今回金賞を受賞できたことは、私たちだけで受賞できたのではなく父母の皆様や先生方、友人をはじめとする私たちを支えてくださっている全ての方々のお陰と心より思っています。ありがとうございます。

私は吹奏楽部に入学して沢山大変だったことや嬉しかったことがありますがどれも良い経験でありそこから多くのことを学ぶことができました。まだ引退まで時間がありますが、今こうして私たちが部活に取り組めることが当たり前だと思わず、これからも皆様への感謝の気持ちを忘れずに精一杯活動していきたいと思ひます。



日頃から本校クラブへのご協力、励ましに大変感謝申し上げます。

この度、本校吹奏楽部は、吹奏楽コンクールの高等学校B編成の部門北海道代表として、東日本大会に出場し、金賞を受賞できるという身に余る成績を残すことができました。

北海道の規定では25名のC編成、35名のB編成でエントリーしますが、東日本大会では、東京、北陸、東関東、西関東、東北の各地区の規定を包含する形で、35名以下という枠で実施されています。2006年度、2007年度にはC編成のエントリーで同大会に出場し、金賞を受賞させて頂いていました。昨年より、35名までのB編成でエントリーし挑戦しています。昨年32名、今年33名と、35名にやや届かない人数で、地区予選を越えていくのは限りなく厳しいと考えていました。決して良い成績を収めることではなく、参加できる生徒をできるだけ全員参加させること自体に、教育的な価値があるのだという立場に立ち、挑戦させて頂いております。25名の生徒が充分な演奏を身につけると、35名が身につけるのでは、35名の方が難しいことです。多数生徒が居ながら、生徒を選抜してエントリーしている学校がいくつもある中では、なお大きな壁に向かっていくことです。

生徒と共に考えていたことは、成績のためにコンクールに出るのではない、それぞれが自己ベストを目指す中で、演奏を通じて、個人個人の心のあり方やいろんな力、自分を成長させていくことを学ぶこと自体に意味があるのだ、そんな中、聴きにくる聴衆の方々に、どここの学校もそれぞれに素晴らしいなあと、演奏を楽しんでいただけなのがコンクールなのだと思うと語り合ってきました。皆様のご理解ご支援のゆえ、部員生徒たちに恵まれ、それに報いることをとらせてきていただいております。

今年このように、成果を生ませて頂いたのは、何よりも旭川大学高校吹奏楽部を信じて送り出してくださった保護者の方々、各中学校の先生方のおかげです。さらにはこのクラブで、地道な活動の時も頑張る努力を惜しまなかった卒業生部員たちのおかげです。本当にありがとうございました。

演奏よりも個々の生徒がどんな思いでこの場に居るのかということのほうが大切なのだ、本当に仲間を大切に、この場を大切に、音楽演奏の楽しみを共に味わっていかうとしているのか！ そんなことを語りながら指導にあたらせて頂いて来ております。

是非、これからも生徒たちが本当に音楽演奏を楽しみ、良き人間的な成長の場としていけるよう精進していきたいと思ひます。ご指導ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。